

特集

東日本大震災から5年

あの日を忘れない

日本中が深い悲しみに包まれた、東日本大震災から5年――。

私たちは、平成24年1月に策定した「旭市復興計画」に基づき、早期の復旧と創造的な復興に全力で取り組んできました。共に支え合い、共に励まし合い、東日本大震災の被災経験によるさまざまな教訓から、復興に向け災害に強い地域を目指してきたこれまでの歩みを振り返ります。

復興への誓い

平成23年3月11日、宮城県三陸沖で発生したマグニチュード9.0の「東北地方太平洋沖地震」とそれに伴って発生した津波やその後の余震などによって引き起こされた東日本大震災は、東日本の沿岸部を中心に未曾有の被害をもたらしました。この震災により、市内でも14名もの尊い命が奪われたほか、いまだに2名の方が行方不明となっています。

私たちはこの経験から、早期の復旧と創造的な復興を最優先に進めてきました。また二度と尊い犠牲を出さないため、防災教育や防災訓練の充実など、震災の教訓を後世に伝える取り組みを進め、一人一人が正しい知識と高い防災意識を持つ、防災を文化にする地域づくりを目指しています。



旭市長
明智忠直

5年間の歩みを 振り返って

東日本大震災の悪夢から5年がたちました。多くの尊い命が奪われ、肉体的、精神的恐怖におびえたあの日。被災された皆さんに、あらためて心からお見舞いを申し上げます。直後の巡回で惨状を目の当たりにした私は、自然の猛威に恐怖を感じたものでした。

あの日から「心をひとつに復興を」との思いで対応に当たり、復興への道は確かな足取りで進んだように思いますが、何よりもありがたかったことは、天皇、皇后両陛下がこの旭市を被災地で最初に訪問いただいたことであり、国民を思う優しいお言葉に、被災された方々がどれほど勇気付けられたか……。またボランティアの皆さん、応援していただいた全ての方々に、心からお礼を申し上げます。

東日本大震災追悼式を開催します

東日本大震災における犠牲者の方々を追悼し、復興を成し遂げることを誓うため「東日本大震災五周年 千葉県・旭市合同追悼式」を開催します。

日時／3月11日(金) 午後2時30分～

場所／いいおかユートピアセンター2階潮騒ホール

対象／誰でも参列できます。

駐車場／一般の参列者は、会場南側にある飯岡海岸の駐車場に駐車してください。

そのほか／●無宗教形式で行います。 ●葬儀ではありません。

●供花や供物、香典などは辞退します。

●服装は礼服・平服のいずれでも結構です。

【一斉黙とうへの参加を】

当日は、地震発生時刻と同じ午後2時46分から1分間、防災行政無線で黙とうを呼び掛けるサイレンを、市内一斉に放送します。

問い合わせ先

総務課地域安全班(☎62-5311)

旭市復興 5年間の歩み

震災発生から復旧、復興へ向けた旭市の5年間の歩みを
年表と写真で振り返ります。

平成23年 3月



11日 東日本大震災が発生、旭市で震度5強を観測、津波、液状化による被害が多発。①

市内全域で断水や停電。旭市災害対策本部を設置。市内全域に避難勧告が出され、避難所などで約3,000人が一夜を明かす。

12日 給水車による給水作業、飲料水の配布開始。②

市内各所できれき撤去が始まる、災害廃棄物仮置き場設置。③

13日 義援物資の受け付け、避難所への配布開始。

14日 市内全域に給水を再開。

15日 市内小中学校が再開。

16日 災害ボランティアセンターを開設。7,600人以上が全国から駆けつける。④

4月 14日 天皇、皇后両陛下が旭市を慰問、被災者に温かいお言葉を掛けられる。⑤

22日 旭市災害見舞金の支給開始。

26日 被災者生活再建支援金申請受け付け開始。

5月 11日 応急仮設住宅200戸が完成、入居開始。⑥

17日 被災者に対する市税などの減免を実施。

31日 災害義援金の支給開始。

震災発生から復旧へ



インタビュー①

復興に向かう一体感が生まれた



災害公営住宅
今川隆さん
(萩園)

避難所や仮設住宅での生活は、余震などもあり不安な日々でした。やっと落ち着いたのは、災害公営住宅に入居してからですね。その後は、体育協会の活動で気が紛れました。復興をテーマに開催したしおさいマラソンでは、多くの参

加者や地元のボランティアが集まり、同じ目的を持って一体感が生まれました。5年がたった今も将来に対する不安は残ります。本当の復興は若い人たちが増え、地域が盛り上がってきたときではないでしょうか。

インタビュー②

全国からの応援が再建の力に



(有)鈴木安太郎商店
鈴木良一さん(右)
康生さん(左)
(椎名内)

津波により工場や機械設備が損壊。在庫も流出して多大な損害になりました。そんな中、震災翌日より日本中の取引先から、米や水などの物資や応援のメッセージが届き、再建に向け頑張る力になりました。工場や設備は復旧したも

の、風評被害の影響で売り上げはいまだ戻りません。野菜から魚まで何でもそろそろ旭市だからこそ、農産物などと組み合わせた新しい売り方も考えたい。これをPRしていけば旭市全体の復興にもつながると思います。

復旧から復興に向けて



旭市復興 5年間の歩み



⑪

3月

30日 津波避難用標高マップを作成。
震災記録誌「被災地あさひ」を発刊。

7月

21日 2年ぶりに矢指ヶ浦・飯岡海水浴場開設。⑪

31日 市道の災害復旧工事が完了。

10月

28日 県と共催で津波避難訓練を実施(参加2,289人)。⑫

1月

24日 液状化対策検討委員会を設置(全9回開催)。

平成25年

3月

25日 津波避難タワーが三川地区に完成(平成26年12月までに全4基)。⑬

海抜標高を示す300か所に新たに設置。

4月

1日 災害時の新たな情報伝達体制、高性能スピーカー、エリアメールなどを導入。⑭

4日 旭市津波避難計画を策定。既設建築物を津波避難ビルとして8か所指定。

津波高10mを想定した津波ハザードマップを作成。

6月

23日 「旭市防災フェア」を開催(参加約800人)。

3月

25日 災害公営住宅(33戸)が完成、4月2日から入居開始。⑮

28日 全ての災害廃棄物の処分を終了(総処理量75,894t)。

平成26年



⑮



⑭



⑬

インタビュー③

子どもたちに防災意識の継承を期待



元飯岡小校長
毛利恒彦さん
(西足洗)

津波で危険な状況下に置かれた児童と地域住民。学校は児童の安全確保と同時に、避難所として多くの人を受け入れました。あれから5年。減災林、津波避難タワー、飯岡中の移転など、対策は進んでいます。個人個人の防災意識の希薄化

も感じます。学校での避難訓練に住民も参加することで、防災意識の高まりにつながると思います。復興はまだ道半ば、次代を担う子どもたちには、貴重な経験が生かされ、防災意識が引き継がれるよう期待します。

インタビュー④

あの日の後悔もこれからの自分のために



飯岡中卒新成人
渡辺和夏子さん
(平松)

卒業を間近に控えた日、地震は起こりました。経験したことのない大きな揺れに、不安な気持ちになりました。復興に向かう地域のつながりの深さを感じた反面、あのころの自分にも何かできることがあったのではと悔しさも残りま

す。気持ちの整理がついた今、大学のボランティアサークルに所属し東北の被災地などでも活動しています。被災地の今を肌で感じ、忘れない気持ちを奮い立たせ、人と関わりを持ちながらいろいろな経験をしていきたいです。



20



21



18



19



17

4月

10日 災害に対する知識や避難場所の周知を図るため、防災マップを作成。

20日 液状化対策に関する住民説明会を開催し、調査結果を報告。

6月 3日 旭市が「国土強靱化地域計画策定モデル調査実施団体」に選定される。

7月 19日 旭市営海浜プールが4年ぶりの再開。

旭市防災資料館がオープン。東日本大震災の記憶を後世へ。

2月 27日 避難路87か所に避難誘導看板を設置。

3月 8日 旭市海岸減災林3,000本植樹祭を開催。

7月 23日 旭市国土強靱化地域計画を策定。自然災害などに備えた地域づくりへ。

10月 18日 旧食彩の宿いとおが荘が民間貸し付けで復活。

12月 10日 津波避難道路(横根三川線)の工事が始まる。

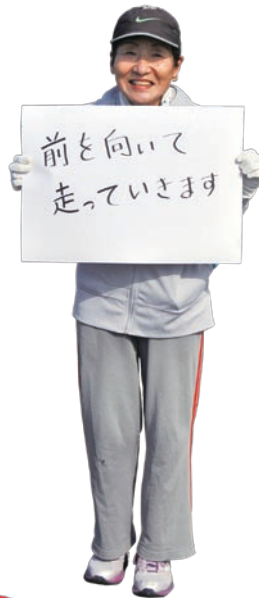
12月 17日 経済の再興へ「道の駅季楽里あさひ」ブランドオープン。
10日 津波被害を受けた飯岡中の移転改築工事が完成。



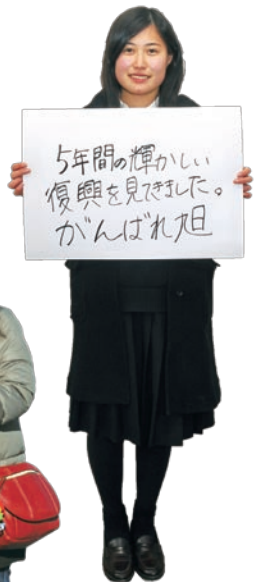
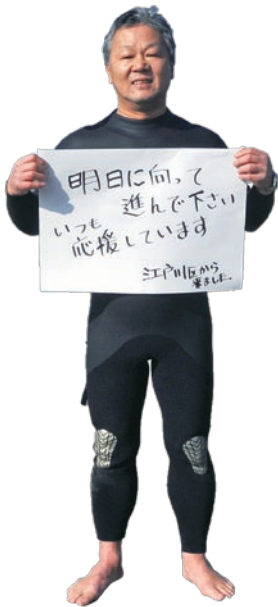
16

これからも **前**を向いて

人と人とのつながりの大切さを知り、地域への誇りと愛着を再認識した5年間。
みんなの笑顔と一緒に、これからもしっかりと前を向いて進んでいきます。



旭が大好きだから



取材を終えて

決してあの日を忘れることなく、しっかりと前を向いて歩みを進める。人々の優しさと絆の尊さを感じ、地域への誇りと愛情を知る――。震災から5年が経過し、現在の復興状況を検証する中で、多くの人が語った復興感です。復興は道半ばですが、前向きに力強く進む人たちの姿がそこにありました。

最後に紙面の都合上掲載できなかった人を含め、今回の取材に協力してくださった多くの皆さんに感謝致します。